葦毛通信（いもう）

ヒメヒカゲ♂

令和元年　8月16日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町３丁目１
TEL：0532-56-6060
No. 85

1、2019モニタリング報告－3

１）Ｊ地点

Ｊ地点西側では木道の近くにあるヤマザクラを残しました。ヤマザクラ周辺のネザサの根をバックホーで丁寧に除去しましたが、この時ヤマザクラの根が露出してしまいました。ヤマザクラを抜根すれば湿地に戻る可能性が高いと思われた部分ですが、根の保護のために土を入れました。その時に入れた土が湿地の土ではなく、周辺の乾燥地の土であったために、ヤマザクラの根の周辺からオオイヌタデが多く発芽してきました。オオイヌタデは、抜根した木の根やネザサの根を積み上げたところから大量に発芽し、大きな群落になっています（右上写真）。右側のヤマザクラの周辺にはオオイヌタデが、画面奥の根を積み上げたところは手前がササ、奥がオオイヌタデの群落になっています。

ササ等の除草作業前（2019 年 7 月 20 日）

ヤマザクラの周辺にはオオイヌタデが出現し、湿地状態にはなりませんでした。入れた土が乾燥地の土で、その中に含まれていた埋土種子が乾燥地の植物の植物だったためです。

つまり、ヤマザクラの周辺に人為的な乾燥した環境を造りだしてしまったということです。そこで、7 月 25 日にヤマザクラの周りのオオイヌタデと奥のササ等を除去しました（右下写真）。木の根を積み上げたところのオオイヌタデはそのまま残しています。

除草作業後（2019 年 8 月 15 日）

今年の冬の作業では、ヤマザクラの根元に入れた土を除去して本来の環境に戻す予定です。

J－10 地点

Ｊ－10・11・12 地点は、ミズゴケやネザサを除去した実験区で、葦毛通信 No.77 で作業内容を報告しました。各地点とも、木道沿いのところに黒色土が堆積し、水量が多い湿地として再生しています。

Ｊ－10 地点では木道沿いのところがイノシシにかく乱されてしまいました。右写真の右側手前に穴が掘られた状態ですが、そのままにして観察しています。ネザサとミズゴケを除去しましたが、画面奥ではコシンジュガヤが多く発芽しました。

Ｊ－10 地点(2019 年 8 月 15 日)

J－11 地点

Ｊ－11 地点（下左写真）はＪ－10 地点の 10m ほど下流（北側）です。木道側は水量が多く、浅い池状になり、トンボが産卵に来ていました。ホタルイ、カヤツリグサ、アオコウガイゼキショウ、イヌノハナヒゲがところどころで発芽し、その間では、ミミカキグサとムラサキミミカキグサが発芽し開花しています。奥は山の中から水が湧きだして水道が現われましたが、少し雨が降らないと枯れてしまいます。手前の湿地部分は水分が多く、奥は乾燥していますが、やや湿った異なった環境になっています。

Ｊ－11 地点(2019 年 8 月 15 日)

Ｊ－12 地点(2019 年 8 月 15 日)

J－12 地点

Ｊ－12 地点（右写真右)はＪ－11 地点より 20ｍほど下流にあります。ヤマザクラの少し下流ですが、Ｊ－11 地点に類似した状態になっています。ホタルイ、アオコウガイゼキショウがところどころで発芽し、画面中央ではミミカキグサやムラサキミミカキグサが小さな群落を作り、コケオトギリも開花しています。手前の水分が多い部分と奥のやや乾燥している部分では発芽してくる植物に違いが見られるようです。来年にはさらに多くの植物が発芽し、湿地として再生してくると思われます。

２）Ｐ地点

Ｐ地点は葦毛通信 No.78・79 で抜根作業を報告しました。周辺部分は湿地に戻りつつあります。下左写真はＰ地点の西側で、抜根後月１回の定期作業でネザサの根を丁寧に除去しました。画面中央から左側に発芽してきた植物がまばらに見られます。下右写真は中央部ですが、乾燥して植物の発芽が少ない状態です。中央部分はやや乾燥していますが、２～３年後には地表面の礫が見えなくなるほど植物が復活してくると予想しています。

Ｐ地点西側（南から：2019 年 8 月 15 日）　Ｐ地点中央（北から：2019 年 8 月 15 日）

下写真はＰ地点東側に積み上げた根の山ですが多くの植物が発芽してきました。山の上からミカワバイケイソウやハルリンドウが発芽し、湿地に戻しています。

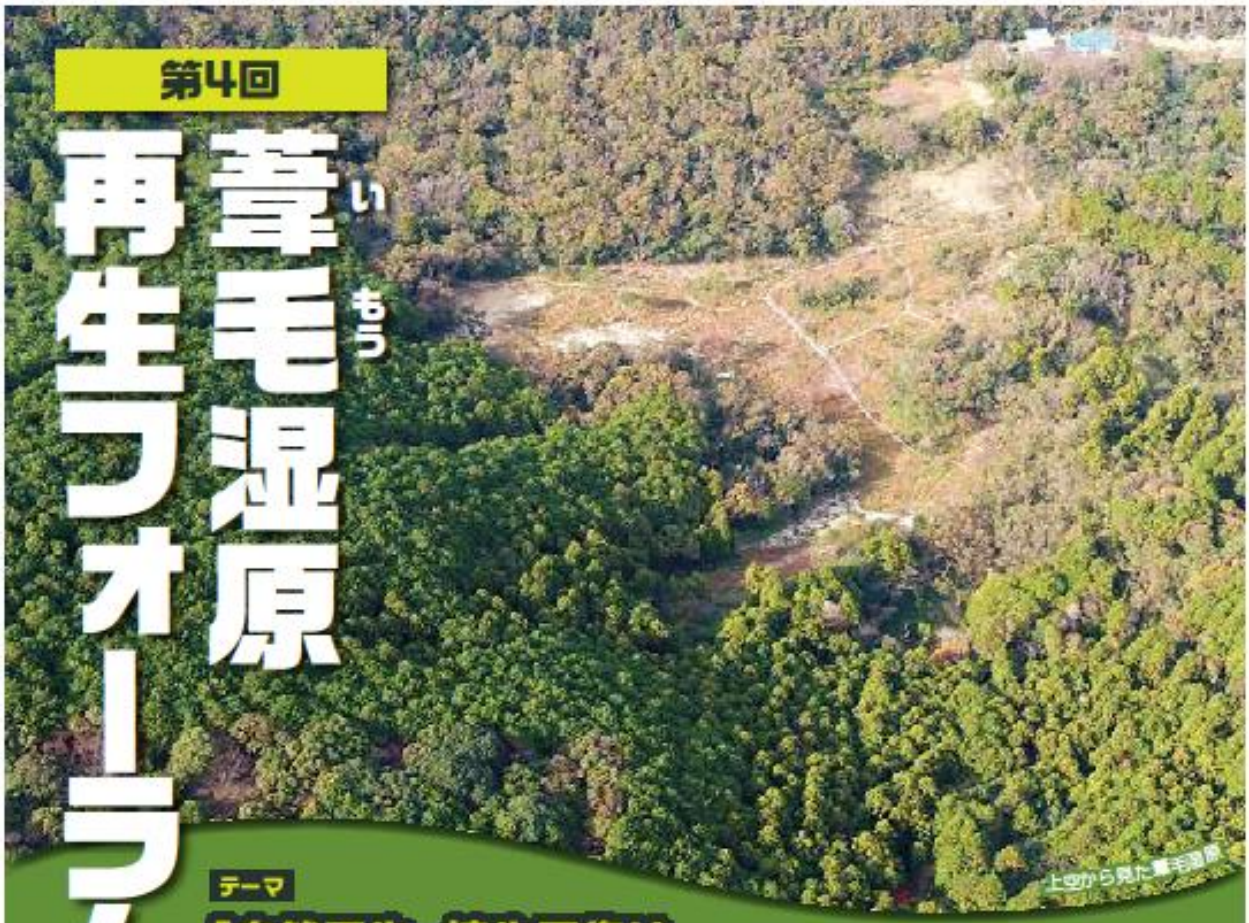
Ｐ地点東側に積み上げた抜根した根の山（2019 年 8 月 15 日）

2、第4回葦毛湿原再生フォーラム

「自然再生・植生回復はどのように行うべきか？」

題名：第４回葦毛湿原再生フォーラム「自然再生・植生回復はどのように行うべきか？」
と き：９月28日（土）開会13時55分～16 時30分（開場13時30分）
ところ：豊橋市民センター　カリオンビル６階多目的ホール（松葉町2丁目63）
講師：高田雅之（法政大学教授）
演題：「日本における多様な小規模湿原の現状とその保全」
定員：９９名（当日先着順）参加料：無料
問合せ：豊橋市文化財センター（☎0532・56・6060）

葦毛湿原とナガバノイシモチソウ自生地では、2013 年１月から大規模植生回復作業を行ってきました。重機を使った大規模な作業については、賛否両論があることは承知しています。今回は、専門家の視点から葦毛湿原の保全事業を評価していただき、小規模湿原の保全について多面的にご講演いただきます。



上空から見た葦毛湿原

第4回

葦毛湿原（いもう）再生フォーラム

テーマ

「自然再生・植生回復はどのように行うべきか？」

2019.9.28（土） 開場13:30から

当日先着順　定員99名　**参加料 無料**

会場　豊橋市民センター（カリオンビル）6階多目的ホール
〒440-0897　愛知県豊橋市松葉町二丁目63

内容　愛知県指定天然記念物「葦毛湿原」で行っている大規模植生回復作業について報告を行い、全国で行われている植生回復や自然再生作業の現状とその方法について最新の研究を発表していただきます。

植生回復作業

バックホーによる埋土種子の播き出し

講演者

高田雅之
法政大学教授

プログラム

13:30	開場
13:55	あいさつ
14:00～14:30	「葦毛湿原の大規模植生回復作業」 豊橋市文化財センター　賀 元洋
14:30～14:40	休憩
14:40～16:10	「日本における多様な小規模湿原の現状とその保全」 法政大学教授　高田 雅之
16:10～16:30	質疑応答
16:30	終了

主催：豊橋市教育委員会　問合せ：豊橋市文化財センター　TEL.0532-56-6060